【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公開番号】特開2004-164491(P2004-164491A)
【公開日】平成16年6月10日(2004.6.10)
【年通号数】公開・登録公報2004-022
【出願番号】特願2002-331992(P2002-331992)
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０６Ｆ　1/00
　Ｇ０６Ｆ　12/14
　Ｈ０４Ｌ　9/08
【ＦＩ】
　Ｇ０６Ｆ　9/06　６６０Ｌ
　Ｇ０６Ｆ　12/14　３１０Ｚ
　Ｇ０６Ｆ　12/14　３２０Ｂ
　Ｇ０６Ｆ　12/14　３２０Ｆ
　Ｈ０４Ｌ　9/00　６０１Ｂ
　Ｈ０４Ｌ　9/00　６０１Ｅ

【手続補正書】
【提出日】平成16年5月28日(2004.5.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６４】
　最後に、プログラム更新成否判定部２０８が、プログラム更新の成否を判定する。すなわち、Ｅｎｃ（プログラム，プログラム固有鍵）を外部メモリ１００に書き込んだ（ＳＸ８）後、外部ホストＩ／Ｆ５０が有するプログラム処理部５１のプログラム復号用暗号エンジン５４を用いて、復号して取り込み（ＳＸ９）、平文状態でのハッシュ値を演算する（ＳＸ１０）。演算されたハッシュ値は、プログラム取得部２１２が暗号化プログラムとともに取得したハッシュ値と比較され、この比較によって更新の成否が判定される（ＳＸ１１）。更新が成功したときは、古いプログラムを消去する（ＳＸ１２）一方、更新が失敗したときは、送信されたプログラムを消去する（ＳＸ１３）。そしてプログラム格納先、サイズなどの情報をセキュアメモリ１０に書き込み（ＳＸ１４）、更新処理が終了する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６７】
　また、本実施形態では、外部要因によってプログラムの更新の開始が指示され、通常動作部２１１がプログラム取得部２１２を起動し、プログラムの取得後はブートプログラムによって各処理を指示するものとしたが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、ブートプログラムがプログラム取得部２１２を起動する構成にすることによって、さらにセキュリティを高めることができる。
【手続補正３】

【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図１】